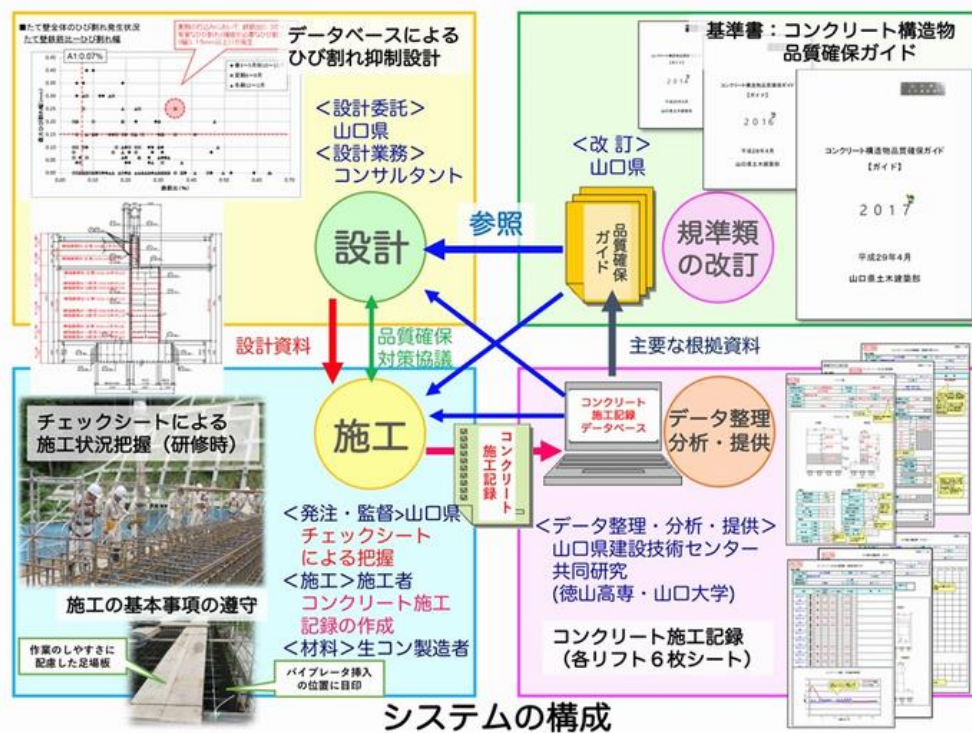


技 術 賞

I グループ（具体的なプロジェクトに関連して、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる計画、設計、施工または維持管理等の画期的な個別技術（情報技術、マネジメント技術を含む））



(業績名) 山口県によるひび割れ抑制・品質確保システムの構築と展開

山口県

田村 隆弘 (徳山工業高等専門学校)

二宮 純 (徳山工業高等専門学校)

中村 秀明 (山口大学)

細田 暁 (横浜国立大学)

(選定理由)

山口県において、コンクリート構造物の施工時に発生するひび割れの責任の所在、調査・補修・検査等について、受発注者間の対立が深刻化していた。平成 17 年度からの実構造物群での試行工事により、産官学の協働によるひび割れ抑制システムの道が拓け、平成 19 年度から正式に運用を開始した。ひび割れ抑制に成功し、品質全体の向上も確認され、平成 26 年度に品質確保システムへ拡張した。

山口県のシステムでは、施工の基本事項が遵守されるためのツールとして、A4 一枚の「施工状況把握チェックシート」が開発された。施工の基本事項の遵守により、施工由来のひび割れの低減、表層品質の向上が達成された。このシートは後に、東北、群馬、さらには平成 29 年度に国交省からの通知により全国の地方整備局等で行われた品質確保の試行工事で活用・応用された。

山口システムでは、施工記録をデータベース化し、データベースに基づくひび割れ抑制設計手

法を確立した。温度応力解析を使わないひび割れ抑制設計である。簡便かつ精度が高く、生産性が高いシステムと言える。平成 26 年度には、ひび割れ抑制から品質確保システムへと拡張し、工事成績評定におけるひび割れの扱いが改善されるなど、建設マネジメントの観点からも歩みが継続している。

本事業は、我が国のコンクリート構造物の品質確保マネジメントの転換点を象徴する事業であり、そこでの検討が永きにわたって広く参照される価値を有しているものと高く評価され、技術賞に値するものと認められた。